

第12号 トリセツ

鳥大説明書

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

空きコマ実態調査!

～鳥大生102人に聞きました～

これまでの学生生活と一変、大学生になって初めて出現した「空きコマ」。鳥取大学の学生がどのように過ごしているのか気になり、実際に調査してみました!友人を中心にアンケートを実施して、「普段空きコマにしていること」として多かった回答がこちら。(複数回答あり)



こんな回答もありました!

- 趣味であるコーヒーの焙煎作業、コーヒータイム用のお菓子の購入
- 自動車学校に行く
- スマートフォンでの動画閲覧や音楽鑑賞、ゲームなど

今回のアンケートで回答してもらった普段の、そして理想の空きコマの過ごし方を実際にやってみました!

日常

▲ 2人で勉強している様子の再現

日常

▲ スマートフォンでゲームをしている様子の再現

理想

▲ 青空を眺めている様子の再現

空きコマとは?
大学生が自分で時間割を作る際に生まれる、授業と授業の合間の「空き授業」「時間割の隙間時間」のこと。

Interview

今回取材に協力してくださったのは、地域学部地域学科地域文化コース1年生の藤森このみさんと佐伯恵理さん。事前に調査したアンケートをもとに「理想の空きコマ」を過ごしてもらいました。

普段の空きコマでは何をしていますか?
【藤森】1限か5限が空きコマであることがほとんどなので、2限から授業の日の朝は寝ていることが多いです。朝は洗濯などの家事をしていることもあります。

佐伯さんはどうですか?
【佐伯】家で家事をしていることが多いですね。私はよく部屋やお風呂の掃除をしています。

大学内で空きコマを過ごすときは何をしていますか?
【藤森】友達と話したり、課題をしたりしています。放課後はすぐにサークル活動へ行くことが多いですね。

なるほど。今回『理想の空きコマ』として挙げられた例を実際にやってみてどうでしたか?
【藤森】いつもは授業の合間などの空きコマらしい空きコマが無いので新鮮でしたね。
【佐伯】私は学生会館のテラスや芝生には普段行かないので、行ったことのない場所に行けて幸せでした。特に私は地域学部部に所属しており、地域学部棟や図書館には行って他学部棟方面に行くことはほとんど無いので。

楽しんでいただけたようで良かったです。ご協力ありがとうございました。

▲ 藤森さん(左)と佐伯さん(右)へのインタビューの様子

感想
今回の調査を通して、皆さんが勉強をするなどして有効に空きコマを使っていることが分かりました。理想の空きコマについての回答の中には、漫画の世界を体験したいなど、私には思いつかないような面白い回答があったので楽しかったです。また今回の調査は、私自身の空きコマの過ごし方を見直すいいきっかけになりました。私も空きコマに勉強をして有意義に過ごそうと思います。(清藤)

自分は家が遠いので、平日はずっと学校にいることが多く、家が近い学生は空きコマをどう過ごしているのか気になったのが今回の調査のきっかけでした。同級生や上級生がどのように空きコマを過ごしているのかを知ることができて新鮮でした。また「理想の空きコマ」が人によって大幅に異なるのもとても興味深く、実践してみてそれぞれの楽しさを体験できました。(三好)

鳥大生 自炊奮闘録

授業、課題、サークル活動や部活動、アルバイトなどで忙しい学生は日々の食事をどうしているのでしょうか。自炊、外食、アルバイト先のまかない、学食で食べるなどが考えられますが、自炊している人が多いようです。そこで今回は、鳥大生の自炊事情について調査してみました。

潜入調査 実際に2人の鳥大生の自炊の現場にお邪魔しました。

1人目 協力していただいたのは、工学部機械物理系学科1年生の中野裕也さんです。

工学部機械物理系学科1年生 中野 裕也さん

▲ カレーを煮込んでいる様子

献立はカレーライスです。大学生になってから自炊を始めたという中野さんが今回カレーを作るのは2回目でした。野菜の下ごしらえから取り掛かります。まず慣れた手つきでジャガイモを水で洗い、深めの皿に移して皮をむきやすくするためにレンジにかけます。そして、にんじんは皮をむかずに輪切りにし、火が通りにくいため先に鍋に入れて火にかけます。その後他の野菜も輪切りにして、豚バラ肉を鍋に入れて火が通るまで炒めます。あとは水を足し、カレーのルーを加えて煮込めば完成です。

▲ 野菜を切っている様子

Q1. よく作るメニュー
A1. カレーライスやシチューなど1回の調理で多めに作っておける料理が多いです。残ったものは容器に分けて冷蔵庫に保管します。

Q2. にんじんの皮をむかない理由
A2. 野菜の皮をむく作業が嫌いです。自炊をはじめ、にんじんは皮をむかなくても食べられることに気づき、それからは手間を省くためにそのまま食材として使っています。

Q3. 料理するときに重視していること
A3. 最も重視するのは食べても大丈夫かどうかです。食材にしっかりと火が通っていることを確認します。

▶ 盛り付けられたカレー

2人目 協力していただいたのは、地域学部地域学科国際地域文化コース1年生の廣田真菜さんです。

ひろた まな

メニューは廣田さんがよく作るという「野菜炒め」と「にんじんと玉ねぎのみそ汁」です。大学に入ってから料理を始めたという廣田さんですが、手際よく野菜を切り、お肉の下味も付けるなど、ずいぶんと手慣れた様子でした。しかし、野菜炒めの具材用に買っていたもやしを入れ忘れるなどといったハプニングもあり、はらはらする場面もありました。完成した野菜炒めとみそ汁をいただきましたが、どちらもとてもおいしかったです!

▲ 慣れた手つきで野菜を切る廣田さん

Q1. よく作るメニュー
A1. 水菜とささみのサラダを作ることが多いです。材料費が安く、簡単に作れるため頻繁に作っています。

Q2. 料理をするときに重視していること
A2. 材料費が安いことと簡単であることを重視しています。また冷蔵庫にある食材を見てメニューを考えることもあります。

Q3. 買い物をする場所
A3. S マート、イオンで買い物をすることが多いです。授業やサークル活動で忙しいときは家の近くのS マートを利用し、時間に余裕があるときはイオンまで行って多めに食材を買うようにしています。自分のスケジュールにあわせて買い物をする場所を使い分けています。

Q4. 平均予算
A4. 夕飯を外食するときもありますが、大体3~4日で1500円程度です。

Q 自炊している人が多いようですが、鳥大生はいったいどのようなものを作っているのでしょうか?そこで、鳥大生に質問しました!
よく作るメニューを教えてください。(たくさんのお返事をいただいたので、その一部を抜粋し紹介させていただきます。)

A

- 野菜炒め ● ハヤシライス ● 豚キムチ ● カレー
- 卵焼き ● 焼きそば ● パスタ ● 鍋
- うどん ● オムライス ● レタスチャーハン ● 親子丼

野菜を多く使った料理を作っている人が多いようでした。野菜は買っておくと長持ちするし、一度にボリュームのある料理を作ることができて、たいへん便利です。また、野菜炒めは焼肉のタレ味やしょうゆ、みそ、中華など、味にバリエーションを持たせることができるので、飽きることなく作ることができるという魅力だと思います。

感想
今回行った自炊についての取材では、週末にまとめて作って冷凍保存しておく、時間のある時とない時とで買い物をする場所を使い分けるといったスケジュールにあわせた工夫が数多く見られました。私も授業が早く終わる日や週末に少し遠くまで行ってまとめ買いをしたり、週末に作ったものを冷凍保存しておいて毎日のお弁当に入れたりしています。皆さんもぜひ参考してみてください!(西本)

今回鳥大生の自炊について取材してみて、自炊の考え方が変わりました。今まで自炊するときはメニューに沿って食材をそろえたり、工程を重視していたのですが、自炊はもっと自由なんだと思い直しました。自分のために作る料理、失敗をおそれず食べられればよい、そんな気持ちでもっと積極的に自炊していこうと思いました。また、大学周辺にはスーパーが多くあるので授業やサークル活動後に買い物をして帰るなど、食料の買い出しには困りません!(上野)

因幡の手づくりまつり

6月25日(日)に第21回因幡の手づくりまつりが開催されました。地域に根ざした文化を子どもたちに体験してほしいという思いから、鳥取在住の技能士や教育関係者が集まってこの活動が行われています。このイベントには鳥取大学の学生もボランティアとして参加し、これまで準備を進めてきました。21年目を迎え、今年で最後となる今回は過去最多である1500人もの来場者を迎えて大いに盛り上がりました。次回のトリセツでは、鳥取大学学生実行委員会の方にインタビューを行い、その様子をお伝えしたいと思います。

Gバス試乗会の様子

今年の3月に行われたGバスの試乗会の様子を紹介します！
torimori. サポーターの皆さんが企画しました。



G バスとは、鳥取因幡Gバスツアーを略したもので、4つのコース、Green、Geo、Geowest、Genfukeiがあります。鳥取自動車道活性化協議会の方から昨年9月に、バスツアーを通して鳥取県東部を活性化したいとの話を受け、10月から企画が進められていったそうです。鳥取の「癒し」を感じられる素敵なバスツアーです。

※今回ご紹介するツアーは試乗会用の企画ツアーであり、4つのコースには該当しません。

1 じんぼうかく 仁風閣 (鳥取市東町)



▲優雅な外観の仁風閣に向かう参加者ら



▲仁風閣の内装

洋風建築が特徴の国の重要文化財です。白亜の洋館仁風閣と周りの自然とのコントラストは1枚の絵画のように映り、市民の憩いの場となっています。映画「るろうに剣心」の口ケ地にもなった場所で、大正天皇が皇太子時代に宿舎として使用したこともあります。

2 こうたくじ 光澤寺 (八頭郡八頭町)



▲ランチはイタリアン精進料理

▲住職の話をお聞いている様子

自然に囲まれた宿坊でゆったりとした時間を過ごすことができます。住職とお話できるほか、瞑想をして心と身体をゆつくりと休めることもできます。

4 せいらゆうちや 道の駅清流茶屋かわはら (鳥取市河原町)



▲道の駅かわはらでサポーターがガイド中

▲道の駅かわはら (集合写真)

地域ブランドの品々が取り揃えられていて旅行のお土産にぴったりです。地元の食材にこだわったレストランも併設されており、こちらでも鳥取の食文化を楽しむことができます。

3 おおえ さと 大江の郷 (八頭郡八頭町)



▲大江の郷 (集合写真)

▲デザートはパンケーキ!

新鮮な天美卵を使った1番人気の「大江の郷パンケーキ」はふわふわで絶品です! 牧場スイーツを直売しているショップやレストランもあり鳥取の自然と食を存分に楽しめます。

詳細・予約はこちらから ▶ 【実施】一般社団法人 鳥取県観光コンベンション協会

鳥取自動車道活性化協議会の西垣豪会長にインタビューしました!

Q torimori. サポーターを立ち上げたきっかけはなんですか?

今まで町おこしをする団体と学生が協力する機会が少なかったため、それらの団体と学生たちが束になることで最大の効果を発揮しようと思ったことがきっかけです。

Q 西垣会長から見たtorimori. サポーターは?

熱意を持っており彼ら彼女らの持てる力を精一杯出して活動してくれています。より多くの時間を取り、様々な人々と繋ぐことができたらどれだけ大きな力になるのだろうと思います。

Q torimori. サポーターに伝えたいことはありますか?

鳥取に住む大人たちが想像も出来ないような新しい発想、未来に向けた思いを地域に伝えていってほしいです。また、言いたいことや思っていることをこれからもどんどん発言してほしいです。今までの活動に感謝しており、今後に期待をしています。



▲西垣豪会長

鳥取を元気に! / torimori. サポーター ~バス試乗会~

鳥取自動車道活性化協議会では、鳥取自動車道を利用する県外からの観光客増加を目的として地域を活性化させる活動が行われています。今回、この取り組みに学生サポーターとして参加している torimori. サポーターの4人にインタビューを行いました。



農学部生物資源環境学科2年 松浦 雅実さん



農学部生物資源環境学科3年 辻井 香苗さん



工学部社会システム土木系学科2年 大石 瑞穂さん



農学部生物資源環境学科3年 宗中 聡志さん

torimori. サポーターとは

鳥取自動車道活性化協議会の「地域と地域、人と人を繋ぐ」ための企画立案・運営をサポートとして手伝う学生団体です。現在は11人で活動しており、更に鳥取県を活性化するために、ツアー以外にもお土産などを企画しています。

Q どういう活動を行っていますか?
松浦 鳥取県東部の魅力を知ってもらうための企画でGバスというバスツアーがあり、まず最初にその試乗会に参加させていただきました。そこから新たに自分たち学生の意見を取り入れたプランを考へることになりました。平成28年の9月頃から話が持ち上がり話し合いを重ね、今年の3月に女性の視点から考えた鳥取ならではの「癒し」というテーマで試乗会を行いました。鳥取を盛り上げたいということでも名前も「torimori」となっています。

Q なぜtorimori. サポーターになりましたか?
松浦 昨年の夏にインターンシップで「砂の美術館」に行った際、職員で協議会のメンバーである高取さんからお話をいただきました。鳥取という場所が私の出身地である鳥根県と境遇が似ていると感じ、自分の住む地域の力になれるようにと思い参加しました。また、県外の友達に鳥取を案内する際に鳥取砂丘以外にも多くの場所を紹介できるようにしたいと思いました。

Q ツアーの実現に向けてどのようなことが必要だと思いますか?
宗中 活動を知ったきっかけは松浦さんから話を聞いたことです。バスツアーを自分たちで企画することはなかなかできない体験で面白そうだと思います。なか企画を一から作ることは他のサークル活動でもできますが、実際にバスを出しお客さんを呼ぶバスツアーをすることができると魅力を感じ参加しました。

Q ツアーの準備段階ではどのようなことを行いましたか?
大石 テーマを「鳥取ならではの癒し」、ターゲットを「女子学生」と最初に決めました。

Q やりがいを感じたことは何ですか?
松浦 私たちの意見がかなり反映されていたことが心にぐっと来ました。宗中 自分は当日参加できなかったのですが、試乗会の最後に書いてもらったアンケートですごく良かったという意見が多かったのを見て、喜んでもらえたことに感動し、達成感を得ました。

Q 今後の意気込みをお願いします。
宗中 企画に参加して実際に行うというのは初めてだったので、次は今回の経験を活かしていきたいです。大石 私は、前回意見を言うだけで協議会の方に頼りきりでした。これからは企画書を一から自分たちで作成協議会の人に提出するくらい積極的に活動したいです。

Q ツアーの準備段階ではどのようなことを行いましたか?
大石 テーマを「鳥取ならではの癒し」、ターゲットを「女子学生」と最初に決めました。

Q ツアーの実現に向けてどのようなことが必要だと思いますか?
宗中 最初にテーマとターゲットをしっかりと決めることです。今回はテーマと内容が合致していたため成功した部分が大きかったと思います。ただ周るだけでなくお金も払ってもよいと思わせられるかどうか重要で、バスで周れる範囲や予算の都合を考慮することが難しかったです。

Q 活動をしていく中で苦労はありましたか?
大石 みんなそれぞれの予定があるので集まるのが大変でした。辻井 意見をまとめるのも難しかったです。

Q 活動をしていく中で苦労はありましたか?
大石 みんなそれぞれの予定があるので集まるのが大変でした。辻井 意見をまとめるのも難しかったです。

Q やりがいを感じたことは何ですか?
松浦 私たちの意見がかなり反映されていたことが心にぐっと来ました。宗中 自分は当日参加できなかったのですが、試乗会の最後に書いてもらったアンケートですごく良かったという意見が多かったのを見て、喜んでもらえたことに感動し、達成感を得ました。辻井 参加者がバスに乗っている時すごく良い表情をしていたので自分たちが作ったツアーが喜ばれているのを見て良かったと感じました。

感想
今回、torimori. サポーターの方にインタビューをさせていただいて、同じ鳥取大学の学生がこのような活動を行っていることを知ることができ、とても興味深かったです。また、取材を通して、ツアーの裏でこのような努力があるということができて良かったです。(白方 小野)
私は今回が初めての取材だったため、活動や取材をどのようにすれば良いのかと、戸惑うことが多くありました。また、鳥取の魅力を感じられると思うので興味のある方はぜひ参加してみてください。毎週末運行しているそうです!(松本)